

北海道での避難生活と居住環境に関するアンケート 結果速報版 ver.1

2011年10月19日
 日本建築学会北海道支部・建築計画専門委員会
 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所

本速報版は、2011年10月19日時点での単純集計データです。改めて精査が必要な箇所や追加すべき設問もあり、後ほど細かい修正やクロス集計結果が入る予定ですので、ご了承ください。

この速報を対外的に使用される場合は、念のため野村までご連絡ください。

(北海道大学大学院工学研究院 建築計画学研究室 野村理恵 E-mail: nomurarie@eng.hokudai.ac.jp)

配布・回収状況

配布数 (2011年8月12日)	回収数 (2011年9月5日)	回収率
72*	37	約 51.4%

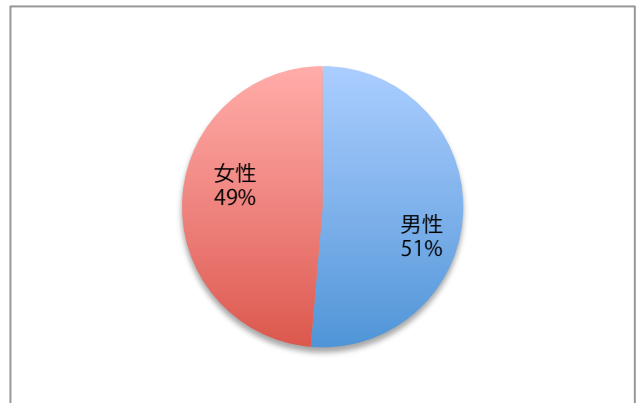
※2011年8月12日時点での道営住宅へ避難入居された全世帯

■ 基本情報

問1-1 性別

項目	回答数	割合
男	19	51.4%
女	18	48.6%

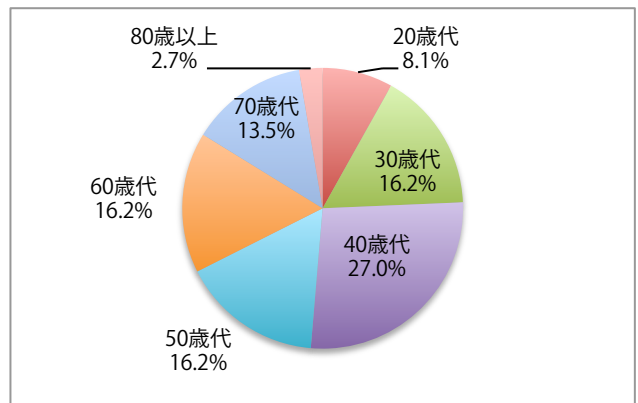
(N=37)



問1-2 年齢

項目	回答数	割合
20歳未満	0	0.0%
20歳代	3	8.1%
30歳代	6	16.2%
40歳代	10	27.0%
50歳代	6	16.2%
60歳代	6	16.2%
70歳代	5	13.5%
80歳代以上	1	2.7%

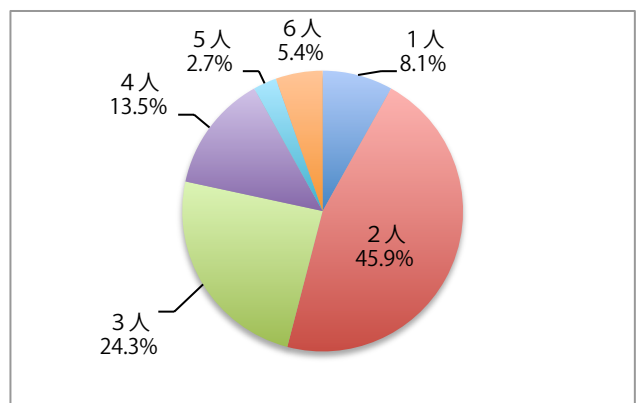
(N=37)



問1-3 同居人数 (本人含)

項目	回答数	割合
1人	6	11.1%
2人	27	50.0%
3人	9	16.7%
4人	6	11.1%
5人	1	1.9%
6人	2	3.7%
7人	2	3.7%
8人	1	1.9%

(N=37)

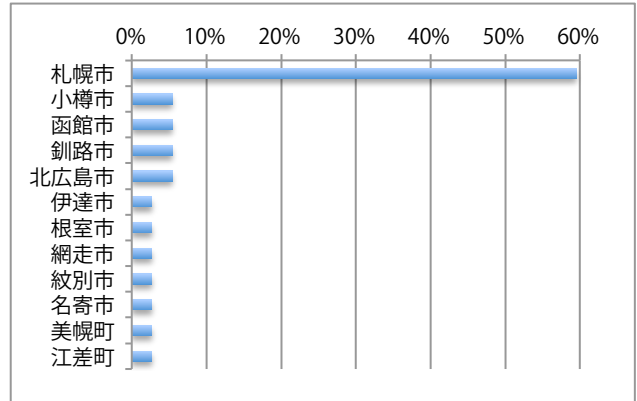


北海道での避難生活と居住環境に関するアンケート 結果速報版 ver.1

問1-4 現在、居住している市町村

項目	回答数	割合
札幌市	22	59.5%
小樽市	2	5.4%
函館市	2	5.4%
釧路市	2	5.4%
北広島市	2	5.4%
伊達市	1	2.7%
根室市	1	2.7%
網走市	1	2.7%
紋別市	1	2.7%
名寄市	1	2.7%
美幌町	1	2.7%
江差町	1	2.7%

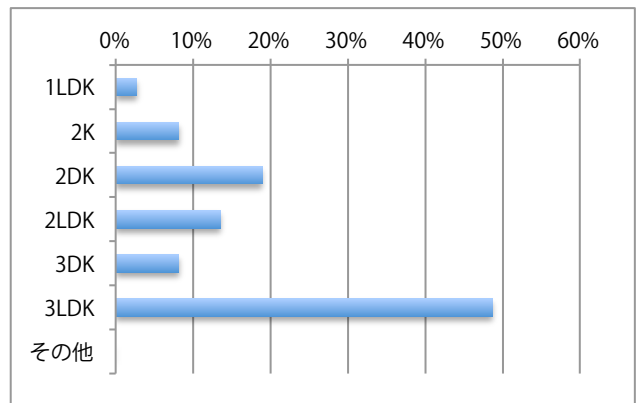
(N=37)



問1-5 現在、居住している道営住宅の部屋タイプ

項目	回答数	割合
1LDK	1	2.7%
2K	3	8.1%
2DK	7	18.9%
2LDK	5	13.5%
3DK	3	8.1%
3LDK	18	48.6%
その他	0	0%

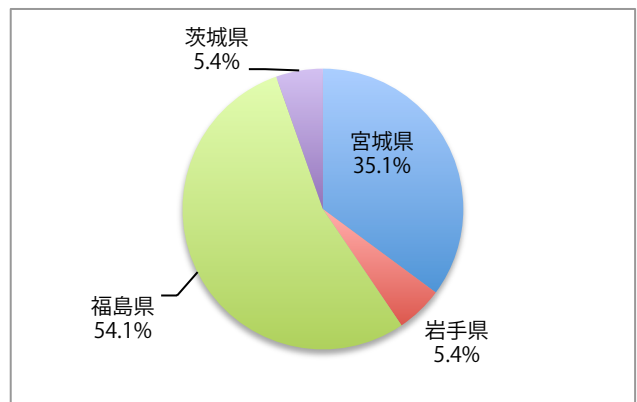
(N=37)



問1-6 どちらから北海道へ来ましたか

項目	回答数	割合
宮城県	13	35.1%
岩手県	2	5.4%
福島県	20	54.1%
茨城県	2	5.4%

(N=37)

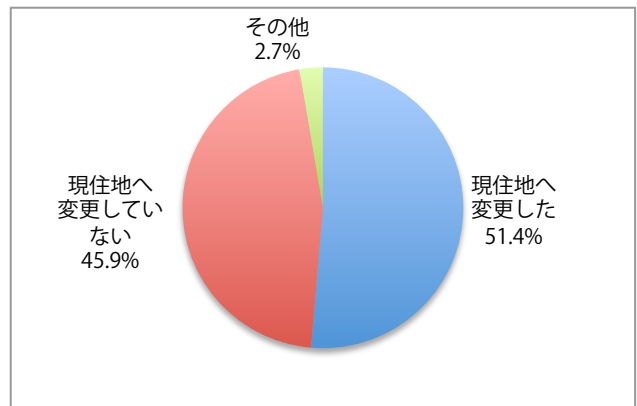


北海道での避難生活と居住環境に関するアンケート 結果速報版 ver.1

問1-7 住民票の移動状況

項目	回答数	割合
現住地へ変更した	19	51.4%
現住地へ変更していない	17	45.9%
その他	1	2.7%

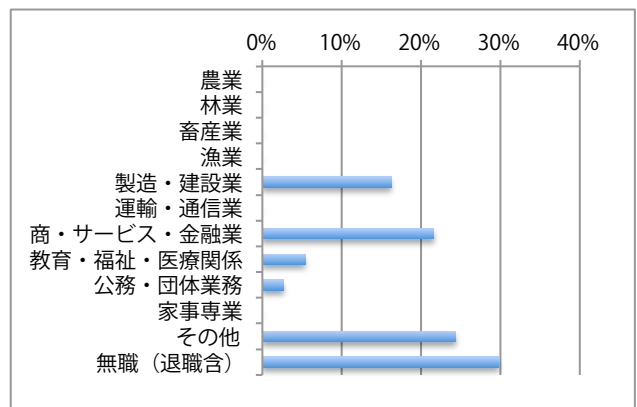
(N=37)



問1-8 被災地での職業

項目	回答数	割合
農業	0	0.0%
林業	0	0.0%
畜産業	0	0.0%
漁業	0	0.0%
製造・建設業	6	16.2%
運輸・通信業	0	0.0%
商・サービス・金融業	8	21.6%
教育・福祉・医療関係	2	5.4%
公務・団体業務	1	2.7%
家事専業	0	0.0%
その他	9	24.3%
無職(退職含)	11	29.7%

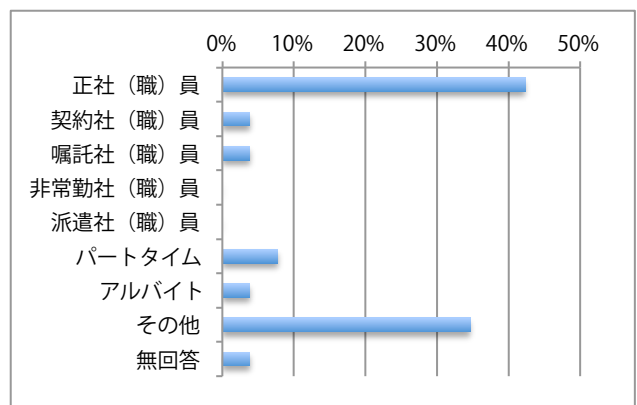
(N=37)



問1-9 被災地での勤務形態

項目	回答数	割合
正社(職)員	11	42.3%
契約社(職)員	1	3.8%
嘱託社(職)員	1	3.8%
非常勤社(職)員	0	0.0%
派遣社(職)員	0	0.0%
パートタイム	2	7.7%
アルバイト	1	3.8%
その他	9	34.6%
無回答	1	3.8%

(N=26:非該当除く)

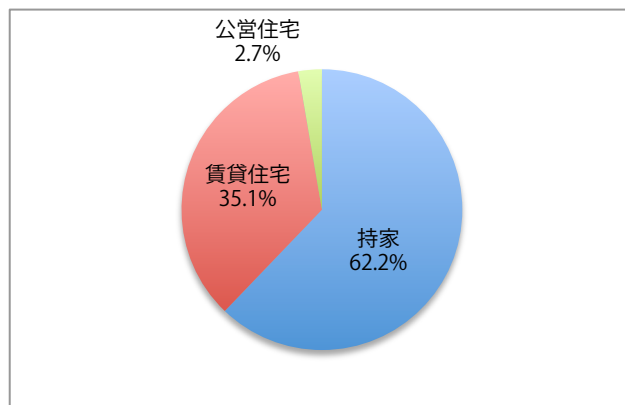


■ 北海道へ来る以前

問 2-1 被災地での自宅の所有形態

項目	回答数	割合
持家	23	62.2%
賃貸住宅	13	35.1%
公営住宅	1	2.7%
社宅	0	0.0%
その他	0	0.0%

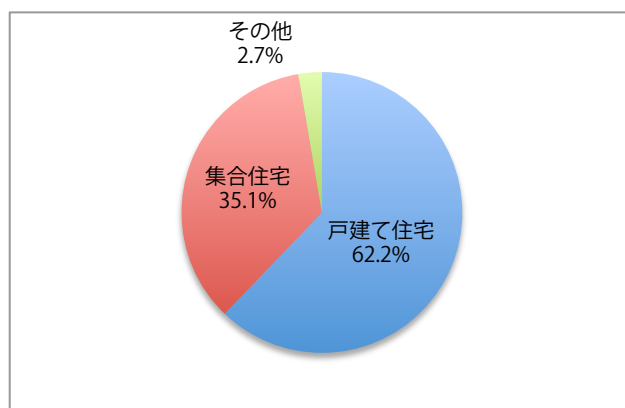
(N=37)



問 2-2 被災地での自宅の住宅形態

項目	回答数	割合
戸建て住宅	23	62.2%
集合住宅	13	35.1%
その他	1	2.7%

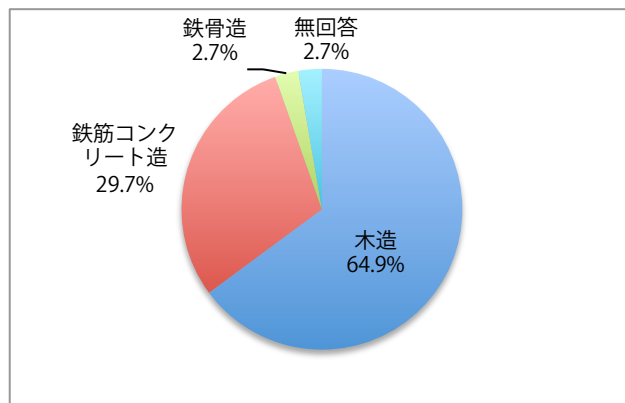
(N=37)



問 2-3 被災地での自宅の建物構造

項目	回答数	割合
木造	23	62.2%
鉄筋コンクリート造	13	35.1%
鉄骨造	1	2.7%
その他		
無回答		

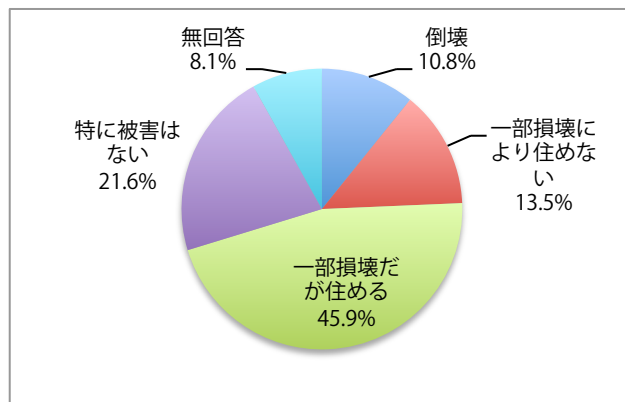
(N=37)



問 2-4 地震による自宅の建物被害

項目	回答数	割合
倒壊	4	10.8%
一部損壊により住めない	5	13.5%
一部損壊だが住める	17	45.9%
特に被害はない	8	21.6%
無回答	3	8.1%

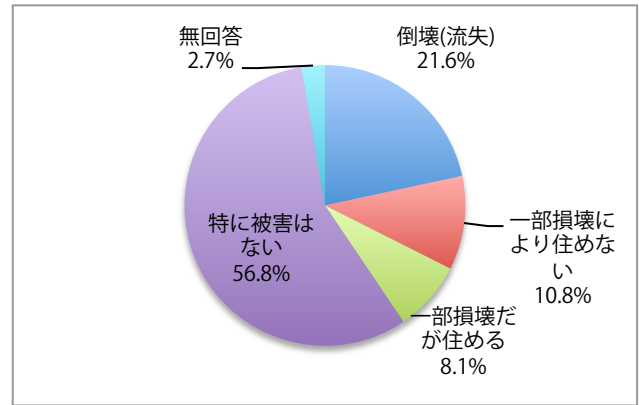
(N=37)



問 2-5 津波による自宅の建物被害

項目	回答数	割合
倒壊（流失・焼失）	8	21.6%
一部損壊により住めない	4	10.8%
一部損壊だが住める	3	8.1%
特に被害はない	21	56.8%
無回答	1	2.7%

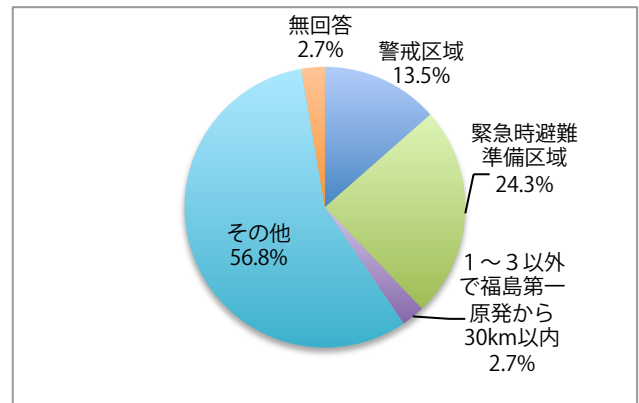
(N=37)



問 2-6 福島第一原発と自宅の位置

項目	回答数	割合
警戒区域	17	31.5%
計画的避難区域	3	5.6%
緊急時避難準備区域	8	14.8%
1～3以外で福島第一原発から30km圏内	3	5.6%
その他	23	42.6%

(N=37)



問 2-7 その他の被災状況

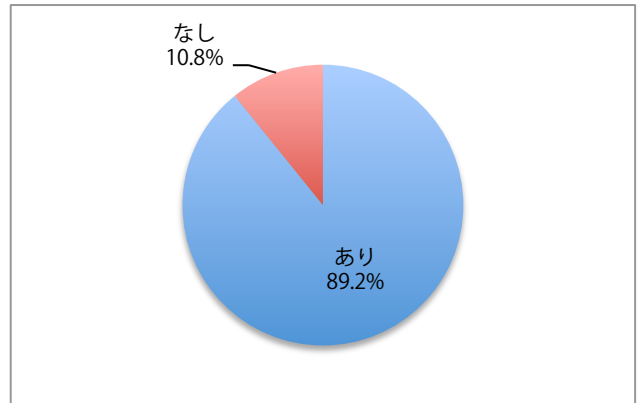
- ・ ライフラインは復旧しましたが津波により自宅には住めなくなりました。(宮城県 50 代女性)
- ・ 介護施設が閉鎖になり退所を求められた。通院、商業施設等全てが閉鎖。(福島県 50 代女性)
- ・ 都市ガスが使えなくなった。(宮城県 70 代男性)
- ・ 電気・水道・ガスが復旧していなかった。冷蔵庫・レンジ・洗濯機・パソコン等すべての家財が破損し、使用不能になっていた。(宮城県 60 代男性)
- ・ 避難区域ではないが、30km 圏内の一部より放射能が高い。1.2 マイクロシーベルトの現状に不安。(福島県 40 代女性)
- ・ 水道・ガスが復旧していなかった。病院が被災した。(福島県 40 代男性)
- ・ 実家、職場が津波で流された。(福島県 20 代男性)
- ・ 放射線量が高いホットスポットになり、子どもや自分たちの健康を担保できなくなった。(茨城県 30 代男性)
- ・ 病院で透析ができなくなった。(福島県 80 代男性)
- ・ 交通網の寸断、ガスが復旧しなかった。(宮城県 50 代女性)
- ・ 小中学校の再開が全く不透明だった。(福島県 40 代女性)
- ・ 水道、電気、買い物が不便で遠い。(岩手県 40 代女性)
- ・ ライフライン全てが寸断、勤務地が津波被害で復旧見込みたらず。(宮城県 30 代男性)
- ・ 自宅、実家、車、すべて流失。仕事場も流失。知人宅へ避難。(岩手県 40 代女性)
- ・ 勤務先が倒壊し働けなくなった。(宮城県 30 代男性)
- ・ 電気、水道、電話すべてがストップしたままで道路は段差があり車では通れないし、駅、線路もなくなり車も置いたままでいつ帰れるのか心配です。新築して 5 年 10 ヶ月でした。(福島県 70 代女性)

北海道での避難生活と居住環境に関するアンケート 結果速報版 ver.1

問 2-8 3月11日の地震発生から北海道営住宅に入居するまでに自宅以外へ避難した場所があるか

項目	回答数	割合
あり	33	89.2%
なし	4	10.8%

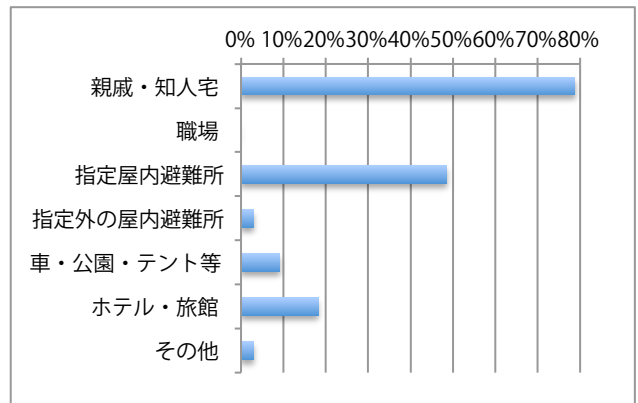
(N=37)



問 2-9 避難した場所 (MA)

項目	回答数	割合
親戚・知人宅	26	78.8%
職場	0	0.0%
指定屋内避難所	16	48.5%
指定外の屋内避難所	1	3.0%
車・公園・テント等	3	9.1%
ホテル・旅館	6	18.2%
その他	1	3.0%

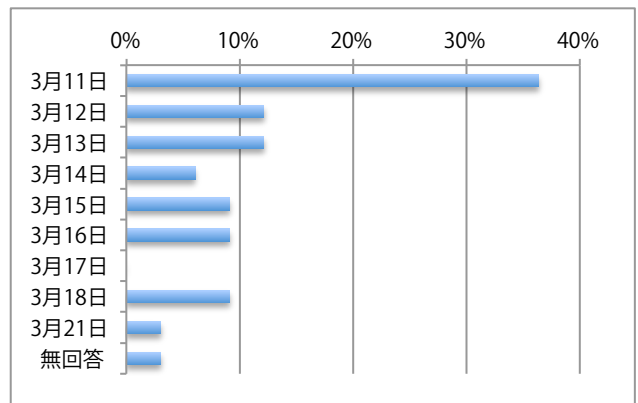
(N=33：非該当除く)



問 2-10 自宅からはじめに避難した日

項目	回答数	割合
3月11日	12	36.4%
3月12日	4	12.1%
3月13日	4	12.1%
3月14日	2	6.1%
3月15日	3	9.1%
3月16日	3	9.1%
3月17日	0	0.0%
3月18日	3	9.1%
3月21日	1	3.0%
無回答	1	3.0%

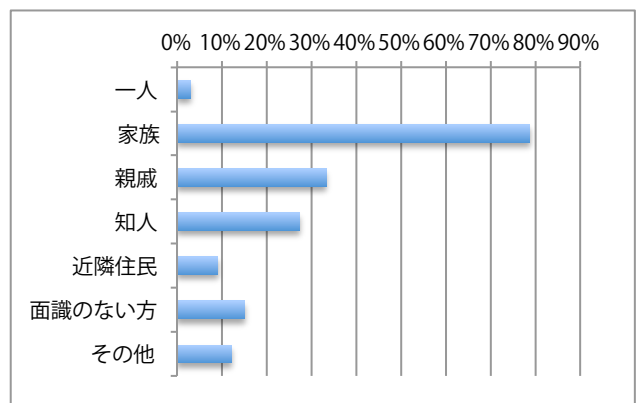
(N=33)



問 2-11 避難した時に一緒にいた人 (MA)

項目	回答数	割合
一人	1	3.0%
家族	26	78.8%
親戚	11	33.3%
知人	9	27.3%
近隣住民	3	9.1%
面識のない方	5	15.2%
その他	4	12.1%

(N=33)

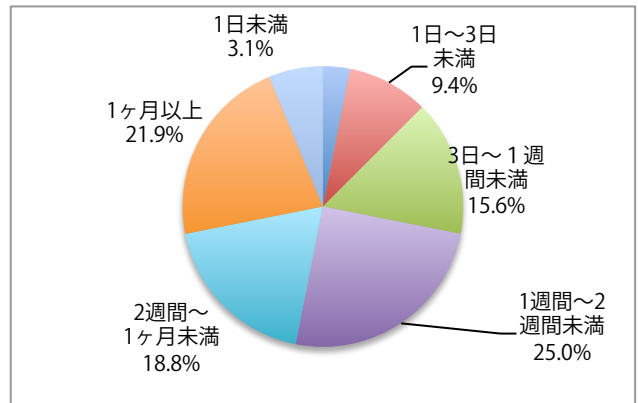


北海道での避難生活と居住環境に関するアンケート 結果速報版 ver. 1

問 2-12 避難場所にいた期間

項目	回答数	割合
1日未満	1	2.0%
1日～3日未満	3	17.6%
3日～1週間以上	5	11.8%
1週間～2週間未満	8	23.5%
2週間～1ヶ月未満	6	23.5%
1ヶ月以上	7	21.6%
無回答	2	6.1%

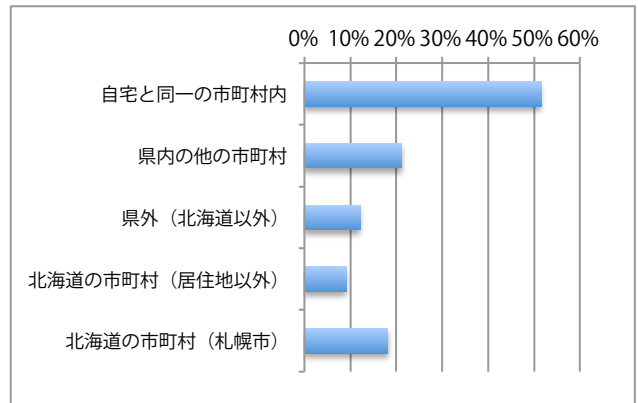
(N=33)



問 2-13 避難した地域 (MA)

項目	回答数	割合
自宅と同一の市町村内	17	51.5%
県内の他の市町村	7	21.2%
県外 (北海道以外)	4	12.1%
北海道の市町村 (居住地以外)	3	9.1%
北海道の市町村 (札幌市)	6	18.2%

(N=33)



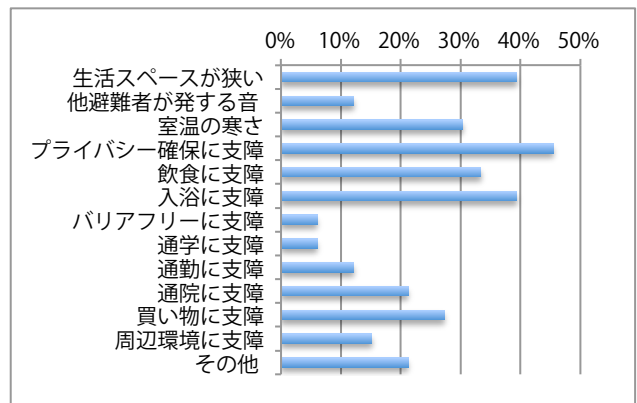
問 2-14 避難場所へ行った理由

※集計中

問 2-15 避難場所での問題点 (MA)

項目	回答数	割合
生活スペースが狭い	13	39.4%
他避難者が発する音	4	12.1%
室温の寒さ	10	30.3%
プライバシー確保に支障	15	45.5%
飲食に支障	11	33.3%
入浴に支障	13	39.4%
バリアフリーに支障	2	6.1%
通学に支障	2	6.1%
通勤に支障	4	12.1%
通院に支障	7	21.2%
買い物に支障	9	27.3%
周辺環境に支障	5	15.2%
その他	7	21.2%

(N=33)



その他自由記述： ・ペットの居場所 ・衛生面がひどかった（特にトイレ） ・すぐ後ろが崖で、余震の度にいつ崩れるのかとおそろしかった。 ・トイレ、充電器不足、ろうそくもすぐなくなり夜困った

問 2-16 避難場所や周辺的环境について、事前に情報が提供できていれば良かったとおもうこと

- ・ 隣の人ともバラバラ、最初の避難も何がなんだか解らず向こう三軒両隣がどこへいったのか解りません。一時帰宅した時、隣の家が我が家に寄りかかって地震が来る度に我家の家もずれて来るのをみかけたが、連絡のしようがない。
- ・ 指定避難所のはずが地形がすり鉢状になっており、水が何日も引かず、しかも毛布なども全くなく津波で濡れた身体にはきつかった。陸の孤島のような所だったので、救援物資もなかなか来なかった。(福島県 60 代女性)
- ・ 安全性の情報。情報が遅い。(福島県 40 代女性)
- ・ 避難場所の設備内容。(茨城県 30 代男性)
- ・ 近くの高校に避難したが指定避難所でなかったため、食糧も毛布も備蓄がなく 3 日間食わず寒いおもいをした。当日は学校から誘導されたが、避難所でないことの連絡はなかった。(宮城県 50 代女性)
- ・ 初めは指定の小学校の屋内体育館に避難したが、途中で閉鎖になり、隣の中学校に移動したが、すぐ後ろが切り立った崖で余震の度にとっても恐ろしかった。しかし他にいくところがなく寒さと恐ろしさをがまんした。(福島県 70 代女性)
- ・ 連絡がとれない。ラジオなし。毛布は 1 枚に 5～6 人足を入れる状態。(岩手県 40 代女性)
- ・ 赤ちゃん用品(ミルク、おむつ等)があるかどうか。(宮城県 20 代女性)
- ・ 小学校の耐震レベルがどのくらいのものなのか不安だった。(宮城県 30 代男性)
- ・ 避難場所になっている所が流されている。(岩手県 40 代女性)
- ・ 遠方避難と緊急性がある状況では事前に情報を入手するのは無理です。(福島県 40 代男性)
- ・ このような大災害でしたので、情報が大混乱しても仕方ないと思いました。(宮城県 40 代男性)

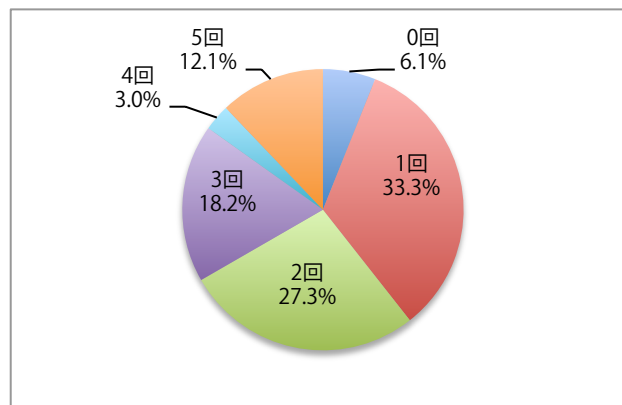
問 2-17 避難場所を退去した理由

- ・ 4 歳の娘、7 0 歳の母も一緒のため、体育館などの避難所では長くすごせなかった。(宮城県 40 代男性)
- ・ 障害の子がいて、どうしても一緒に住むことが難しかったため。(宮城県 50 代女性)
- ・ 持病(リュウマチ、糖尿病、高血圧等)の治療ができない(水が無い為に病院が閉鎖されていた)。歩行もままならないほどに背に痛みを感じていた。札幌に来て MRI の検査を受けて背骨の一部を骨折していることが分かった。(福島県 70 代女性)
- ・ 自分が服用していた薬もなくなるのでビッグパレットにいることは困難だと判断したから北海道の次男を頼りに来ました。次の日には体調が悪化して(吐いたり下痢)救急車で病院へ。点滴を 3 回くらい行い最後に採血をしてすべて調べて頂きましたが、ストレス、疲れ、色々な神経の遣い過ぎとか。(福島県 70 代女性)
- ・ 主治医(東北大学病院)の指示により札幌市内の病院に入院するよう言われたため。(福島県 50 代女性)
- ・ 透析の医院なし。(福島県 80 代男性)
- ・ 原発が爆発したから。(福島県 60 代男性)
- ・ 原発が爆発したため、自宅が住み辛い状況になっているため。(茨城県 30 代男性)
- ・ 原発の安全圏ではないため。(福島県 30 代女性)
- ・ 室内は寒いのは勿論でしたが 4 月 1 0 日までに出て行くように市の方から言われたため。(宮城県 50 代女性)
- ・ 避難場所の受け入れ拒否。(福島県 40 代女性)
- ・ 近いうちに避難所を閉鎖する情報を得たから。(福島県 60 代男性)
- ・ 4 月いっぱい閉鎖のため知人宅へ。(岩手県 40 代女性)
- ・ 兄弟が迎えに来てくれた。(宮城県 40 代女性)
- ・ 居辛くなった。(福島県 30 代男性)
- ・ プライバシーが完全に保護されず、居辛くなったため。(宮城県 30 代男性)
- ・ 1 0 日以上お世話になるのはかなりの迷惑になるため。(福島県 40 代女性)
- ・ 職場の片付けが終わったため。(宮城県 20 代男性)
- ・ 家に帰れたから。(岩手県 40 代女性)
- ・ 乳児がいたため地元に戻ることにした。(宮城県 20 代男性)
- ・ 明朝歩いて自宅に帰れる状況にあったため。妻と連絡をとれずにいたので、とりあえず帰宅したかった。(宮城県 30 代男性)

問 2-18 北海道営住宅に入居するまでに避難場所を移動した回数

項目	回答数	割合
0回	2	6.1%
1回	11	33.3%
2回	9	27.3%
3回	6	18.2%
4回	1	3.0%
5回	4	12.1%

(N=33)



■ 北海道（居住する自治体）へ来るときのこと

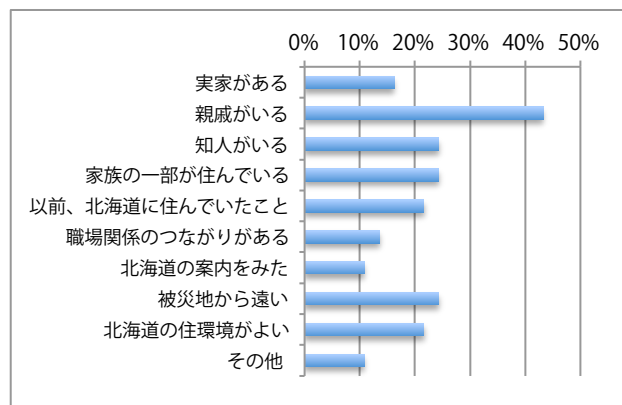
問 3-1 北海道（居住する自治体）へ来ることを決めた日 ※集計中

問 3-2 北海道（居住する自治体） ※集計中

問 3-3 居住する自治体へ来た理由 (MA)

項目	回答数	割合
実家がある	7	13.0%
親戚がいる	22	40.7%
知人がいる	8	14.8%
家族の一部が住んでいる	15	27.8%
以前北海道に住んでいたことがある	12	22.2%
職場関係のつながりがある	5	9.3%
北海道の案内をみた	5	9.3%
被災地から遠い	10	18.5%
北海道の住環境が良い	10	18.5%
その他	8	14.8%

(N=37)



その他自由記述：

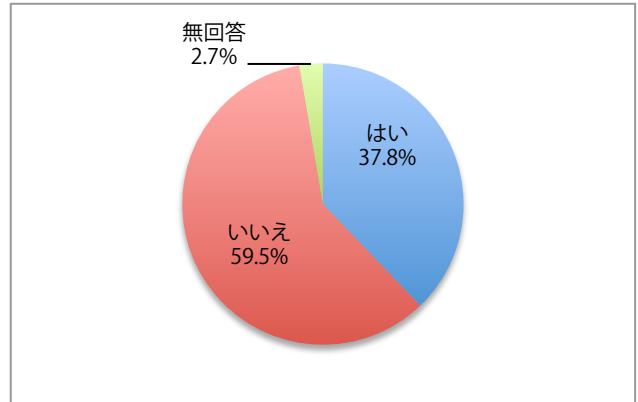
- ・病院がある
- ・自給率、海流汚染、放射能、地盤、津波、災害の少なさ
- ・安全かなと思った
- ・福島第一原発から遠い

北海道での避難生活と居住環境に関するアンケート 結果速報版 ver.1

問 3-4 居住地以外への避難を検討したか

項目	回答数	割合
はい	14	37.8%
いいえ	22	59.5%
無回答	1	2.7%

(N=37)



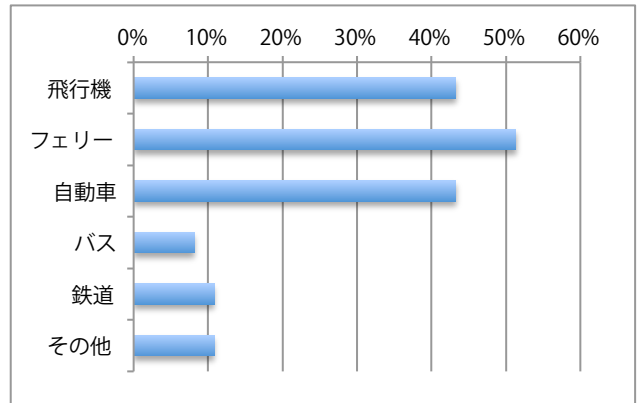
問 3-5 居住地の他に避難を検討した地域

- ・宮城県 3 ・大阪府 2 ・京都府 2 ・新潟県 1 ・青森県 1 ・岩手県 1 ・福島県 (いわき市) 1
- ・栃木県 1 ・埼玉県 1 ・静岡県 1 ・奈良県 1 ・徳島県 1 ・香川県 1 ・福岡県 1
- ・佐賀県 1 ・どこでもいいから離れた場所を探していた

問 3-6 居住する自治体へ来る際の移動手段 (MA)

項目	回答数	割合
飛行機	16	43.2%
フェリー	19	51.4%
自動車	16	43.2%
バス	3	8.1%
鉄道	4	10.8%
その他	4	10.8%

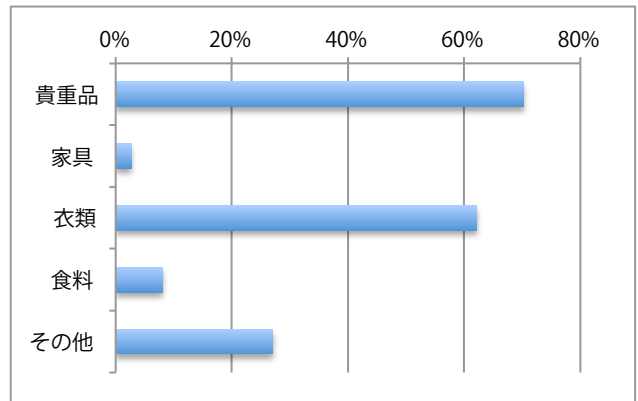
(N=37)



問 3-7 居住する自治体へ来る際に持って来たもの (MA)

項目	回答数	割合
貴重品	26	70.3%
家具	1	2.7%
衣類	23	62.2%
食料	3	8.1%
その他	10	27.0%

(N=37)



その他自由記述：

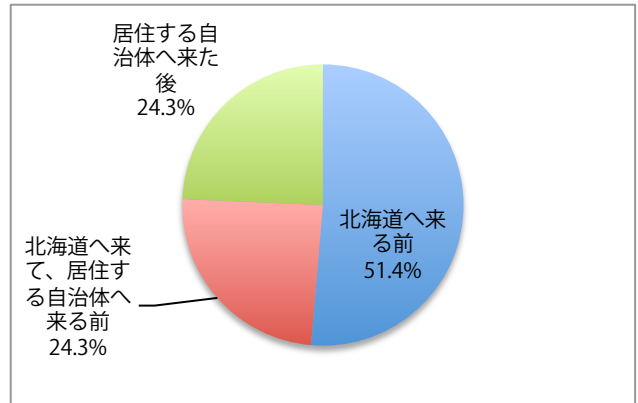
- ・バッグひとつ ・少量の衣類とカード類
- ・毛布 2 枚 ・証書等 ・すべて流失し、何もなし
- ・車一台だけ残ったので、身体と少しの食糧をもって移動 ・PC ・車 ・着の身着のまま

北海道での避難生活と居住環境に関するアンケート 結果速報版 ver.1

問 3-8 道営住宅の情報を知った時期

項目	回答数	割合
北海道へ来る前	19	51.4%
北海道へ来て居住する自治体へ来る前	9	24.3%
居住する自治体へ来た後	9	24.3%

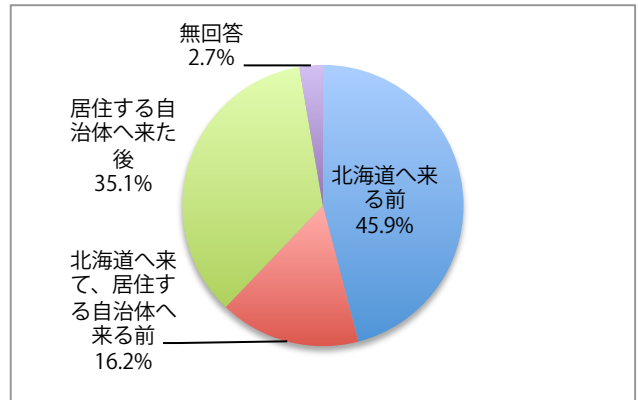
(N=37)



問 3-9 道営住宅への入居を決めた時期

項目	回答数	割合
北海道へ来る前	17	45.9%
北海道へ来て居住する自治体へ来る前	6	16.2%
居住する自治体へ来た後	13	35.1%
無回答	1	2.7%

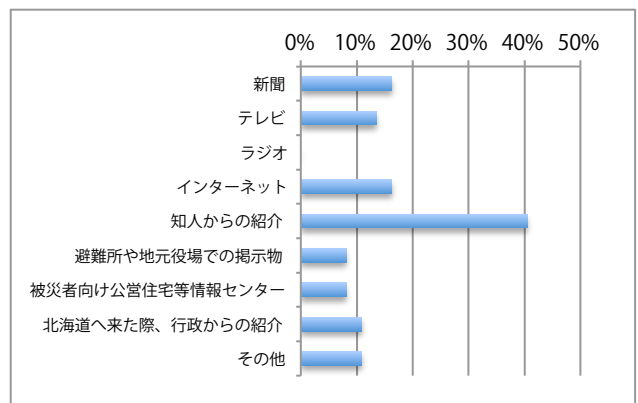
(N=37)



問 3-10 道営住宅の情報入手先 (MA)

項目	回答数	割合
新聞	6	16.2%
テレビ	5	13.5%
ラジオ	0	0.0%
インターネット	6	16.2%
知人からの紹介	15	40.5%
避難所や地元役場での掲示物	3	8.1%
被災者向け公営住宅等情報センター	3	8.1%
北海道へ来た際、行政からの紹介	4	10.8%
その他	4	10.8%

(N=37)

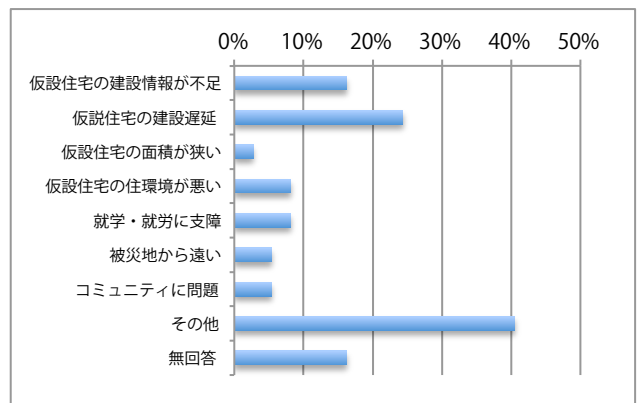


北海道での避難生活と居住環境に関するアンケート 結果速報版 ver.1

問 3-11 ※集計中

問 3-12 仮設住宅へ入居しなかった理由

項目	回答数	割合
仮設住宅の建設情報が不足	6	16.2%
仮設住宅の建設遅延	9	13.5%
仮設住宅の面積が狭い	1	0.0%
仮設住宅の住環境が悪い	3	16.2%
就学・就労に支障	3	40.5%
被災地から遠い	2	8.1%
コミュニティに問題	2	8.1%
その他	15	10.8%
無回答	6	16.2%



その他自由記述：・持ち家でなければ入居できないと市役所から断られた。 ・入居対象ではない。

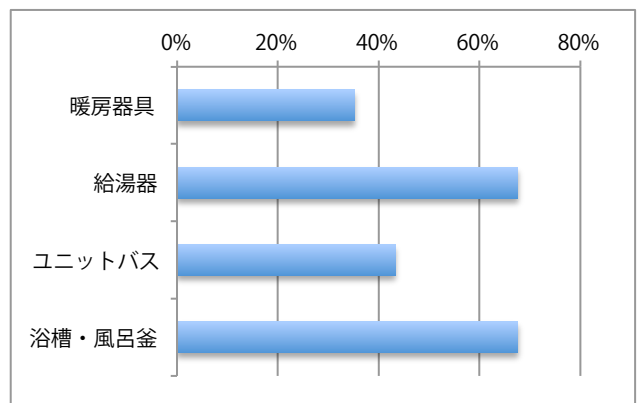
・放射能の問題がある。 ・仮設が建たない。

■ 北海道へ来た後

問 4-1 もともと部屋に備え付けられていた設備 (MA)

項目	回答数	割合
暖房器具	28	51.9%
給湯器	26	48.1%
ユニットバス	27	50.0%
浴槽・風呂釜	27	50.0%

(N=37)



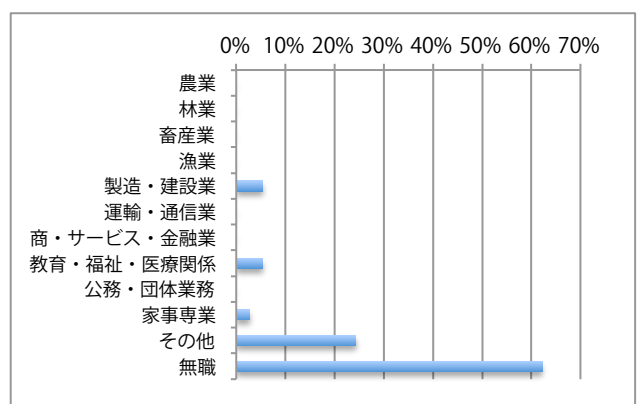
問 4-2 市営住宅入居後、新たに購入したもの

※ 集計中

問 4-3 北海道での現在の職業

項目	回答数	割合
農業	0	0.0%
林業	0	0.0%
畜産業	0	0.0%
漁業	0	0.0%
製造・建設業	2	5.4%
運輸・通信業	0	0.0%
商・サービス・金融業等	0	0.0%
教育・福祉・医療関係	2	5.4%
公務・団体業務	0	0.0%
家事専業	1	2.7%
その他	9	24.3%
無職 (退職含む)	23	62.2%

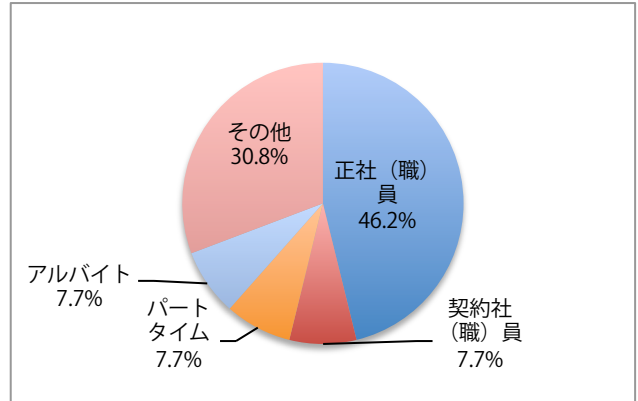
(N=37)



問 4-4 現在の勤務形態

項目	回答数	割合
正社（職）員	6	46.2%
契約社（職）員	1	7.7%
嘱託社（職）員	0	0.0%
非常勤社（職）員	0	0.0%
派遣社（職）員	0	0.0%
パートタイム	1	7.7%
アルバイト	1	7.7%
その他	4	30.8%

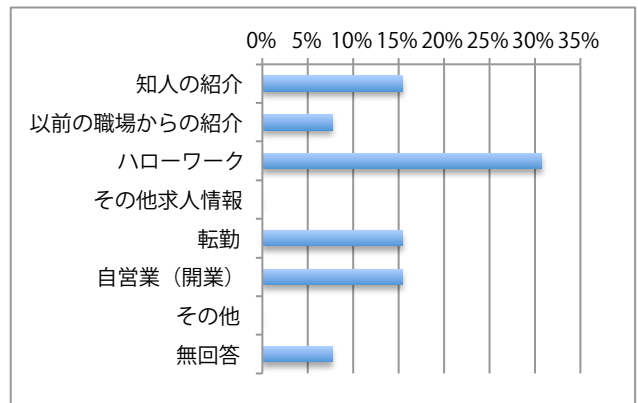
(N=13)



問 4-5 現在の職場の探し方 (MA)

項目	回答数	割合
知人の紹介	2	12.5%
以前の職場からの紹介	1	12.5%
ハローワーク	4	25.0%
その他求人情報	0	12.5%
転職	2	12.5%
自営業（開業）	2	0.0%
その他	0	12.5%
無回答	1	12.5%

(N=13)

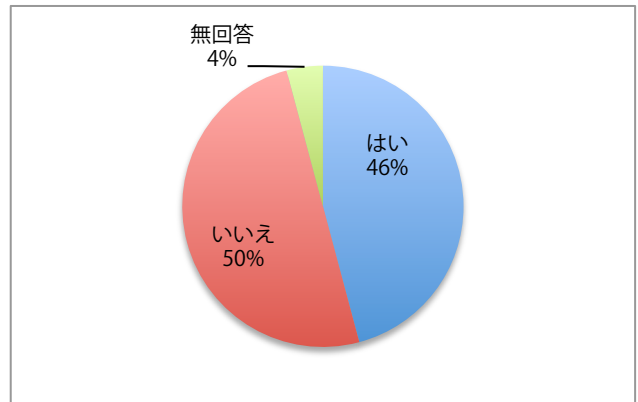


問 4-6 ※集計中

問 4-7 現在、就職先を探しているか

項目	回答数	割合
はい	11	45.8%
いいえ	12	50.0%
無回答	1	4.2%

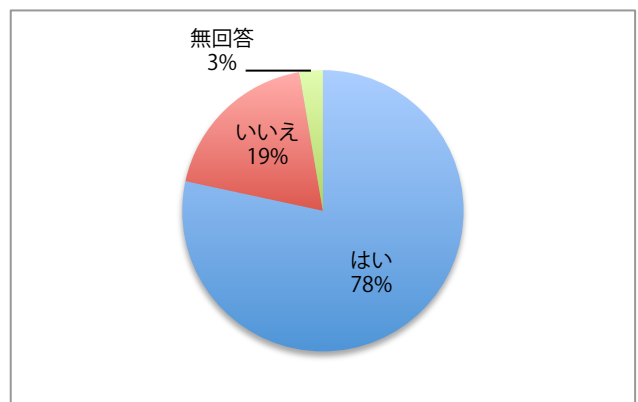
(N=24)



問 4-8 現在、同居家族が居住する自治体内の
病院に通院しているか

項目	回答数	割合
はい	29	78.4%
いいえ	7	18.9%
無回答	1	2.7%

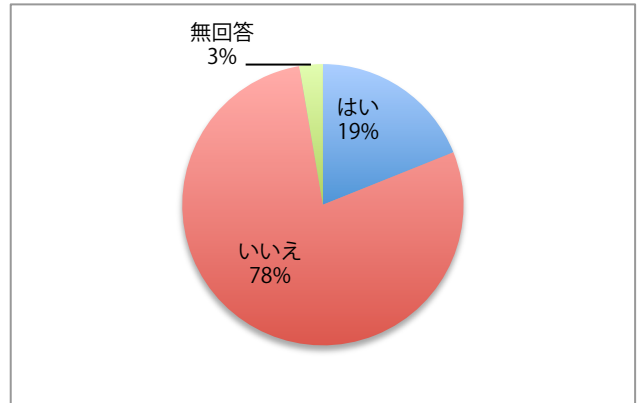
(N=37)



問 4-9 現在、同居家族が居住地の学校に就学しているか

項目	回答数	割合
はい	7	18.9%
いいえ	29	78.4%
無回答	1	2.7%

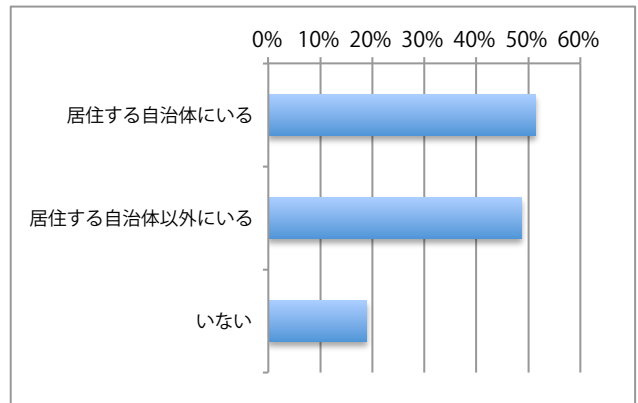
(N=37)



問 4-10 現在、北海道内で連絡をとっている家族や親戚 (MA)

項目	回答数	割合
居住する自治体内にいる	19	51.4%
居住する自治体外にいる	18	48.6%
いない	7	18.9%

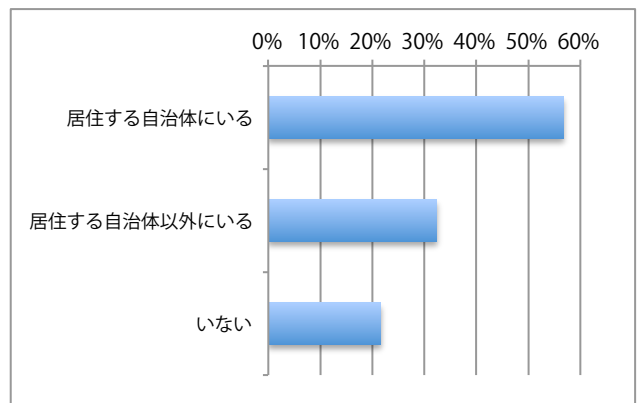
(N=37)



問 4-11 現在、北海道内で連絡をとっている人 (家族、親戚以外) (MA)

項目	回答数	割合
居住する自治体内にいる	21	56.8%
居住する自治体外にいる	12	32.4%
いない	8	21.6%

(N=37)

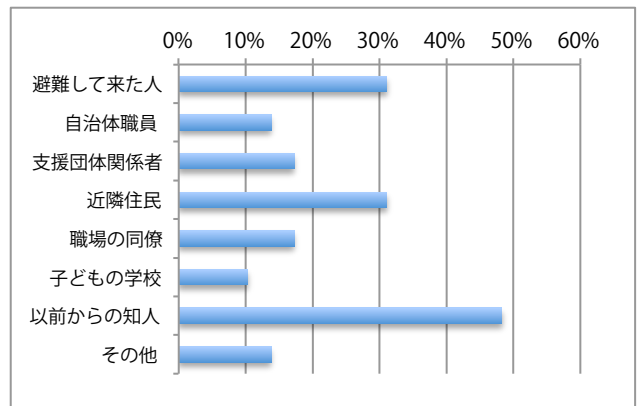


北海道での避難生活と居住環境に関するアンケート 結果速報版 ver.1

問 4-12 知り合ったのはどのような人か (MA)

項目	回答数	割合
避難して来た人	9	31.0%
市役所職員	4	13.8%
支援団体関係者	5	17.2%
近隣住民	9	31.0%
職場の同僚	5	17.2%
子どもの学校	3	10.3%
以前からの知人	14	48.3%
その他	4	13.8%

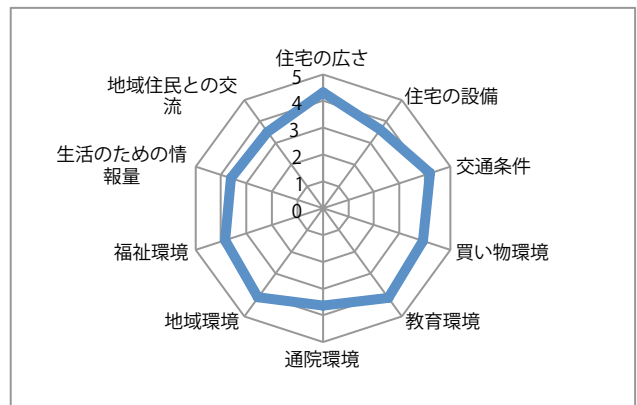
(N=29)



問 4-13 現在の住宅や生活環境の評価

項目	平均値
住宅の広さ	4.31
住宅の設備	3.62
交通条件	4.21
買い物環境	3.91
教育環境	4.14
通院環境	3.64
地域環境	4.11
福祉環境	3.84
生活のための情報量	3.62
地域住民との交流	3.52

(N=37)



問 4-14 ※集計中

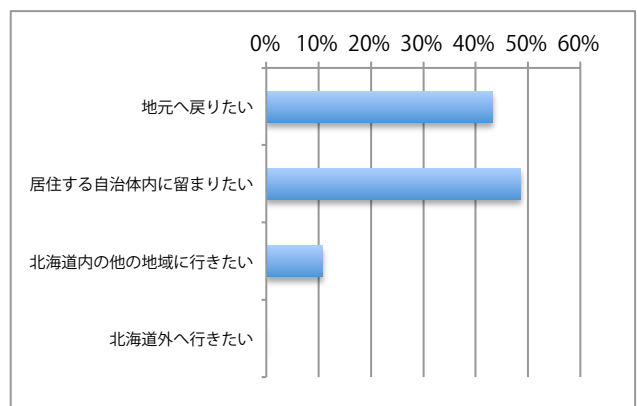
問 4-15 ※集計中

■ 今後の意向

問 5-1 現時点で、今後の居住地についてどのように考えているか (MA)

項目	回答数	割合
地元へ戻りたい	16	43.2%
札幌市に留まりたい	18	48.6%
北海道内の他の地域に行きたい	4	10.8%
北海道外へ行きたい	0	0.0%

(N=37)



問 5-2 その理由

■ 地元へ戻りたい

- ・ 本州との行き来で費用がかかりすぎる。北海道に永住する為には本州との交通費が安くなれば、知人友人お客さんが本州にたくさんいるため、冠婚葬祭にも出席できるし、代理店も継続していける。(福島県 60 代女性)
- ・ 友人が出来ない。(福島県 60 代男性)
- ・ 北海道産まれではあるが、家があるため戻りたい。福島県より知人、友人は北海道にはいるが、問題が解決するまで北海道にいます。(福島県 40 代女性)
- ・ 放射能の心配がなくなればやはりふるさと、両親、兄妹も居るので戻りたい。ただ、子どもを守るためにやっと決心しこちらに来たので、まだ先が見えず。今はまだ先の事が考えられない。(福島県 40 代女性)
- ・ 家財道具、友人・知人がいるため。(福島県 60 代男性)
- ・ 自宅があり、田畑あり農業従事。(福島県 70 代男性)
- ・ 住み慣れたところと友人、知人がいる。家もなおせば住める可能性があり、土地もある。(宮城県 50 代女性)
- ・ 家族がいる。自営業を再開したい。(福島県 60 代男性)
- ・ 家族と一緒に住むのが一番と考えているため。現在は主人のみ福島で就業継続中。(福島県 40 代女性)
- ・ 原発が落ち着き次第戻りたいです。(福島県 30 代女性)
- ・ 生まれ育った場所、知人・友人、残して来た家族のことが心配だから。(宮城県 30 代男性)

■ 札幌市に留まりたい

- ・ 地元には遊びに帰りたい。(福島県 30 代男性)
- ・ 避難前の居住地(石巻)の復旧が全く進んでいないため、戻って今後の生活の予定はたてられないためです。(宮城県 60 代男性)
- ・ 多くの福島県人をここに呼びたい。(福島県 40 代女性)
- ・ 道営住宅だから(家賃が安いと思うから)仕事場へも近い、環境が良い。(福島県 50 代女性)
- ・ 前居住地が原発事故の影響を受けているため。実家が北海道内であるため、親や学生時代の知人と連絡をとり易いため。(茨城県 30 代男性)
- ・ 生活環境が大変充実しています。(福島県 70 代女性)
- ・ 動くとしても金がないから住みたいところに行けない。(岩手県 40 代男性)
- ・ 地元の為。(宮城県 20 代男性)
- ・ 環境が良いので親を呼び留まりたい。(岩手県 40 代女性)
- ・ 落ち着いた生活を子ども達におくらせたい為。(福島県 30 代女性)
- ・ 震災による住居の損壊の復旧の見通しがたたない。東電原発の放射線量が下がらない。茨城の土地の汚染がはかり知れない。(茨城県 50 代男性)

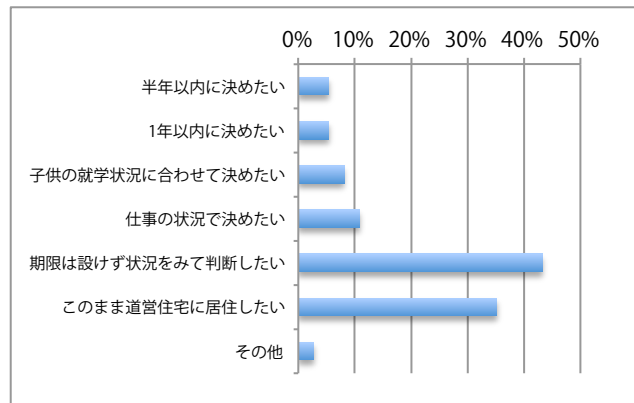
■ 迷い中

- ・ 宮城に不動産を所有している。けれども放射能も心配だし帰りたいけども帰れそうにない。安全な北海道に留まりたいという気持ちも強い。(宮城県 50 代男性)
- ・ 仕事の面、収入面の安定が先です。また、地元にはもちろん戻りたいが、今は帰るところはないし、戻っても仕事再開できるか分からないので戻りたいが戻れない状況です。(宮城県 40 代男性)
- ・ ここが我々夫婦の地元であるので、このまま北海道にいたい気持ちがある。11月に産まれる子どものことを考えると札幌への転居も検討中。(宮城県 30 代男性)
- ・ 内地に帰るときに便利な所、札幌、苫小牧、函館の三カ所の内に行きたいと思う。地元へ戻りたいとは思いますが、すっかり体力が無くなった自分に自信が持てないことと、一人で何事もできるかどうか心配であり、置き去りにして来た車が動くかどうか、敷地が広いので草むしりや家の中がどのようになっているかまったく分からないのでもし住める家で欲しい方がいらっしゃるならばおゆずりしても良いと思っています。(福島県 70 代女性)

問 5-3 今後の居住地はいつ決めたいと考えているか (MA)

項目	回答数	割合
半年以内に決めたい	2	5.4%
1年以内に決めたい	2	5.4%
子どもの就学状況に合わせて決めたい	3	8.1%
仕事の状況で決めたい	4	10.8%
期間は設けず状況をみて判断したい	16	43.2%
このまま道営住宅に住みたい	13	35.1%
その他	1	2.7%

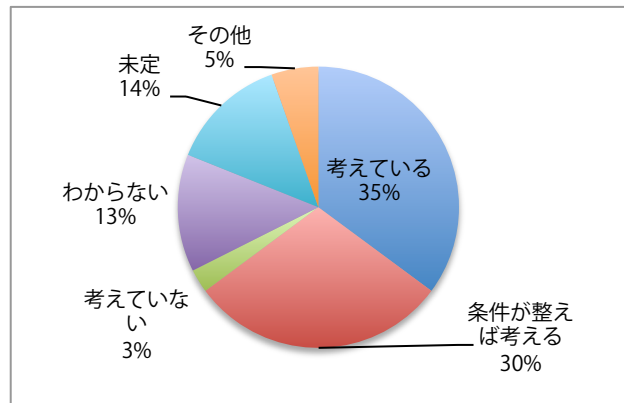
(N=37)



問 5-4 将来的に、現在の居住地に定住する意向はあるか

項目	回答数	割合
考えている	13	5.4%
条件が整えば考える	11	5.4%
考えていない	1	8.1%
わからない	5	10.8%
未定	5	43.2%
その他	2	35.1%

(N=37)



問 5-5 定住の意向について、その理由

■ 定住を考えている／条件が整えば考える

- ・ 人間がゆったりしていていいし、広々とした道路や交通の便利がいいし自然もいい。(福島県 60 代男性)
- ・ 子どものために定住。落ち着きたい！(福島県 30 代女性)
- ・ 原発の安全性・除染、全てが不安。(福島県 50 代男性)
- ・ 現在地で暮らしたい。(宮城県 70 代男性)
- ・ 現在の居住地はとても環境もよく、交通の便、買い物の便、何一つ不足ありません。唯一寒さの厳しさが心配ですが、被災地での地獄のような日々から解放され、穏やかに過ごしております。自分の年齢 (68 歳) も考え、可能なことであれば現在地に定住したいと考えております。(宮城県 60 代男性)
- ・ 今後の活動において利便性が高いから。(福島県 40 代男性)
- ・ 仕事が定着し生活面での不安がなくなれば定住地にしたい。(福島県 50 代女性)
- ・ 住みやすい環境であるため。(茨城県 30 代男性)
- ・ 家族の就職が決まれば。(福島県 70 代男性)
- ・ まずは生活再建、収入の安定を一番として北海道で安定できるのであれば考えなくてはいけないと思っています。(宮城県 40 代男性)
- ・ 仕事と収入が安定すれば北海道にいたい。(宮城県 50 代男性)
- ・ あらゆる点で大満足しています。歩いて 10 分程のところに娘も住まっており、是非永く住みたいと思っています。(福島県 70 代女性)
- ・ 札幌は冬はつらいだろうがあらゆる環境が整ったすばらしい都市だと思っている。(宮城県 50 代男性)

北海道での避難生活と居住環境に関するアンケート 結果速報版 ver.1

- ・ 地元だから。(宮城県 20 代男性)
- ・ 現時点での安全性、親族や知人、職場とのつながりを考えると北海道が一番なので、定住を希望しているが、転勤の可能性もゼロではないのでその時々で判断していきたい。(宮城県 30 代男性)
- ・ 地元に戻っても実家も住んでいたアパートもない。親戚等の家も流されているので戻っても住むところがない。仕事が見つければ定住したい。(岩手県 40 代女性)
- ・ 生活環境が良い。自治体（道や市）の職員が親切。住民が親切。(茨城県 50 代男性)
- ・

■ 考えていない

■ わからない／未定

- ・ まだまだ避難して 2 ヶ月半で、この質問には答えられない。ただ、1 年では答えは出せないし、せめて 2 年は欲しいです。それだけ重い事なのです。(福島県 40 代男性)
- ・ 被災地の放射能汚染状況に依る。(福島県 60 代男性)
- ・ 地元へ戻りたいが見通しが見つからない。(福島県 60 代男性)
- ・ 被災地が再建することしか考えていないので、将来の居住地は分からない。(宮城県 30 代男性)
- ・ 他の北海道内に住みたいと思う。もっと内地に近い場所。(福島県 70 代女性)

問 5-6 ※集計中

問 5-7 ※集計中